

2024年11月1日(金) 曇⇒雨

予報どおり雨が降ってきた。明日にかけて荒れそう。でも日曜・月曜は晴れ、その後ぐっと気温が下がるそうだから、完全衣替えのタイミング。

— どのようなPAか (2) —

当然だけど、ここに書くケースは事実の核心以外は曖昧にしている。年季をかさねているので印象的な実例は多々あるが、相手のあることだから留意しなければいけない。その上で続けよう。

ケース2: 見える仕事の見えない働き

今年の「プロ講師になろう塾」でも受講者のみなさんに、『未完自業史』を書くよう勧めた。なぜその仕事をしたいのか、どのような仕事か、今後の将来像は?と問われているつもりで800字の文章にする。所定のフォーマットがあるが、それをガイドに今はPC入力して出す人が多い。

セミナーの中で最初にこのプロセスをとり入れたのは、たぶん2006年のある創業塾だった。受講者の一人の800字が印象に残っている。書いたものを読むと、そこに事業コンセプトを言語化する種がしっかりあった。

この課題の説明をしている段階では、受講者の多くはその意図をつかめない様子だった。でも書き出すと、自分の人生の物語だから次第に入り込んでいく。

書いてはまた書き直したりして、これでいいかと自分で納得した時には、そこに独自性がよく表れている。何より自分を俯瞰できて、「書いてよかったです」となる。よいのは当方で、受講者個々人に応じた助言に役立つ。

「こういう一覧をつくって配布された方は初めてです、ずいぶん時間がかかったでしょうに、ありがとうございます」。10年後、ある起業塾の主催担当者から、そんな風に言ってもらった。

一覧をつくる目的はコンセプトデザインや実践方法のヒントを共有化するため。当方の読んだ感想、直感的に着想したコンセプト例、そのほか気づいた点などを簡潔に書いてある。実際に時間はかかる。

これを作るようになったのは、たぶん2012年からだった。だからもう通常の作業になっていた。その担当者の方の目線に感服した。「受講者のみなさんのことがよい身近に感じます、フォロー、がんばります」と話された。ほんとうに感心するほど、フォローされていた。